

## (第4回) 水資源に関するシンポジウム開催について「論文の募集」

近年わが国では、経済社会が高度化する中で、量のみならず質的にもより一層安定した水供給が求められています。また、おいしい水、豊かな水環境への関心の高まり、水を活用した地域の活性化等、水資源のもつ多様な価値が再認識され、様々な分野でその活用が進められています。さらに、地球的規模の環境変化が水資源に与える影響も懸念されており、水資源をとりまく環境は益々多様化、複雑化してきております。

このときにあたり、水資源の利用、開発、保全に関するさまざまな課題について、学会、行政それぞれの立場から最新の研究成果を持ち寄り幅広い検討を行うことによって、今後の水資源に関する学術研究の進歩と新しい時代に向けて的的確な水資源行政の展開に資するとともに、水資源問題に対する理解と認識を一層深めることを目的として、標記シンポジウムを下記により開催することになりました。

つきましては、学会会員諸氏におかれましても、このシンポジウムに多数参加されることを希望すると同時に下記要領により発表論文の応募をおすすめします。

### 記

1. 会 期：平成4年8月3日(月)～4日(火)の2日間
2. 会 場：日本学術会議（講堂・会議室）
3. 主 催：日本学術会議水資源学研究連絡委員会，空気調和・衛生工学会，土木学会，農業土木学会，日本気象学会，日本地下水学会，日本林学会，砂防学会，水文・水資源学会，水の週間実行委員会
4. 後 援：厚生省，農林水産省，林野庁，通商産業省，資源エネルギー庁，気象庁，建設省，科学技術庁，環境庁，国土庁，水資源開発公団，地域振興整備公団，住宅・都市整備公団，日本下水道事業団
5. 協 賛：（未定）
6. 募集論文のテーマおよび内容：
 

「募集論文のテーマ」

  - (1) 水資源の活用
  - (2) 水資源の開発と安定供給
  - (3) 水資源の保全と環境
  - (4) 地球環境の変化と水資源

論文の内容：本シンポジウムの主旨に沿い、わが国の

水資源開発および有効利用を促進させる立場より、下記のような内容について、科学的に論じた論文、行政面からの報告等いたします。ただし、個々の専門領域の詳細技術（例えば、水文諸量の計測・解析手法、水質分析手法など）を論じたものは御遠慮願います。

- (1) 水資源の活用：水資源の有効活用の実態，方法および効果を論じたもので，次の各項のいずれかに重点をおいたもの。
  - a. 水需要の動向（水需要の構造分析，水利用の高度化，渇水時の弾力性，その他）
  - b. 水の有効利用（既存水利の合理的利用，ト水の再利用，その他）
  - c. 水エネルギーの有効利用
  - d. 克雪・利雪
- (2) 水資源の開発と安定供給：水資源の開発と安定供給の実態，および効果を論じたもので，次の各項のいずれかに重点をおいたもの。
  - a. 水資源の開発及び供給計画（賦存量，供給安定度，異常気象，海水淡水化，危機管理，その他）
  - b. 水管理と制御（水量・水質の制御，その他）
  - c. 渇水対策
  - d. 地下水の保全と利用
  - e. 水源地域対策（基金，交流，その他）
  - f. 水制度
- (3) 水資源の保全と環境：水の保全を考慮した利用，または環境の改善の実態，方法，および効果を論じたもので，次の各項のいずれかに重点をおいたもの。
  - a. 水環境の保全（各種用水と境境の関係，水質浄化用水，その他）
  - b. 流域の管理と水資源の保全（水資源の涵養，流域開発と水資源，堆砂防止，その他）
  - c. 地域における水の多面的機能
  - d. 水景観の創造（水辺整備，地域づくりと水資源，その他）
- (4) 地球環境の変化と水資源：地球的規模の環境変化が水資源に与える影響等について論じたもので，次の各項のいずれかに重点をおいたもの。

- a. 気候変動と水資源
- b. 酸性雨と水資源
- c. モニタリング(リモートセンシング, その他)

7. 応募方法: 論文応募にあたっては、B4版の適当な用紙(縦長横書1枚)に、①「論文題目」、②「テーマ及び内容の分類」[(1)a.~d., (2)a.~f., (3)a.~d., (4)a.~c.]の別、③「著者名(連名の場合は発表者に○印)」、④「所属学会名」、⑤「勤務先」、⑥「代表連絡者の氏名・連絡先(郵便番号・住所及び電話番号)」、⑦「論文内容の概要(400字~800字)」を記入し、平成4年3月6日(金)までに下記送付先宛お申し込み下さい。

送付先: ☎160 東京都新宿区四谷一丁目無番地  
社団法人 土木学会 内  
(第4回)水資源に関するシンポジウム  
事務局宛  
☎ 03-3355-3441 Fax. 03-3355-3446

なお、応募論文の採否及びプログラムの編成は、「第4回 水資源に関するシンポジウム委員会論文小委員会」にご一任下さい。

応募された論文については、平成4年4月10日(金)までに採否の通知と原稿作成依頼をいたします。4月10日までに通知がない場合は、上記シンポジウム事務局までお問い合わせ下さい。

#### 「原稿作成について」

論文の原稿は、当シンポジウム委員会指定の原稿用紙に著者の責任で「タイプまたはワードプロセッサ」で作成いただいたものを、平成4年6月19日(金)までに提出いただきます。提出いただいた原稿は、オフセット印刷によりB5版サイズで印刷製本いたします。なお、論文一編の長さは、2000字詰原稿用紙で6枚(頁)以内(図・表・写真・グラフ等を含む)といたします。

また、当シンポジウムの参加募集については、改めて主催団体の機関誌告知欄等でお知らせいたしますので多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。(論文投稿・発表の方も有料参加となりますので、参加者募集の際は期限までに申込手続き方ようお願い申し上げます。)

## (第4回)水資源に関するシンポジウム委員会 委員構成

委員長	川本 正知	水資源開発公団総裁	委員	門脇俊一郎	気象庁観測部長
委員	高橋 裕	芝浦工業大学教授	〃	近藤 徹	建設省河川局長
〃	藤田 賢二	東京大学教授	〃	村上 健	建設省都市局下水道部長
〃	丸山 利輔	京都大学教授	〃	須田 忠義	科学技術庁科学技術政策局長
〃	鎌田 元康	東京大学助教授	〃	眞鍋 武紀	環境庁水質保全局長
〃	浅井 富雄	東京大学教授	〃	志水 茂明	水資源開発公団理事
〃	塚本 良則	東京農工大学教授	〃	本田 茂	水の週間実行委員会実行委員
〃	高村 弘毅	立正大学教授	〃	田村 忠義	水の週間実行委員会運営委員
〃	椎貝 博美	筑波大学教授	〃	八木 純一	土木学会専務理事
〃	成田 頼明	横浜国立大学教授	〃	中川昭一郎	農業土木学会専務理事
〃	山内 彪	国土庁水資源部長	〃	柿沼 幹夫	空気調和・衛生工学会事務局次長
〃	高橋 勉	国土庁水資源部審議官	〃	安成 哲三	日本気象学会常任理事
〃	小林 康彦	厚生省生活衛生局水道環境部長	〃	宮内 崇裕	日本地下水学会総務幹事
〃	中道 宏	農林水産省構造改善局建設部長	〃	藤森 隆郎	日本林学会総務理事
〃	岡本 敬三	林野庁指導部長	〃	吉岡 良朗	砂防学会事務局長
〃	鈴木 英夫	通商産業省立地公署局長	〃	池淵 周一	水文・水資源学会総務委員会委員長
〃	川田 洋輝	資源エネルギー庁公益事業部長			